

背部障害 変更理由 (シート A)

●CQ 番号： 4

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ4は「腰椎椎間板ヘルニアに対して、装具療法は有用か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ4を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 9

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ9は「非特異的腰痛に対して、装具療法は有効か」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ9を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 10

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ10は「非特異的腰痛に対して、再発予防として推奨されるのは何か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ10を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 12

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ12は「術後の腰部脊柱管狭窄症患者に対して、運動療法は有用か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ12を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 13

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ13は「腰部脊柱管狭窄症に対して、モビライゼーションまたはマニピュレーションは有用か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ13を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 14

作成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ14は「腰部脊柱管狭窄症患者に対して、物理療法（温熱・電気・牽引）は有用か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ14を辞退することを判断した。

●CQ 番号： 15

作 成： 辞退

判断に至った過程、協議内容など

CQ15は「腰部脊柱管狭窄症患者に対して、装具療法は有用か。」である。このCQに対する良質な研究が少なく、推奨・ステートメント作成には不十分であることと日本理学療法士協会ガイドライン第2版出版のためのスケジュールを考慮して、今回CQ15を辞退することを判断した。